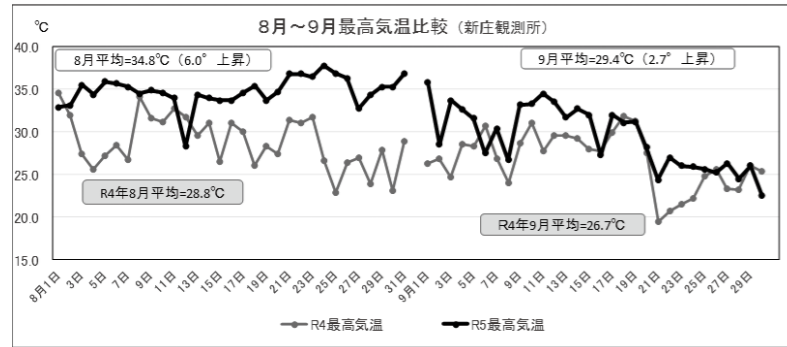




あらかわ ひろみつ 荒澤 広光 議員

農作物・猛暑を 振り返り対策を

雪若丸の拡大・規制緩和を県に要望する



農作物にも大きな影響を与えた猛暑

質問 今年は連日の猛暑少雨の影響により農作物に大きな影響を与えました。JA南部営農センター取り扱い、うるち米の1等米比率は78%と令和4年産比15.3%低下しました。品質低下は農家の収入減に直結します。高温に耐性のある雪若丸等への作付け移行、規制緩和が必要です。園芸

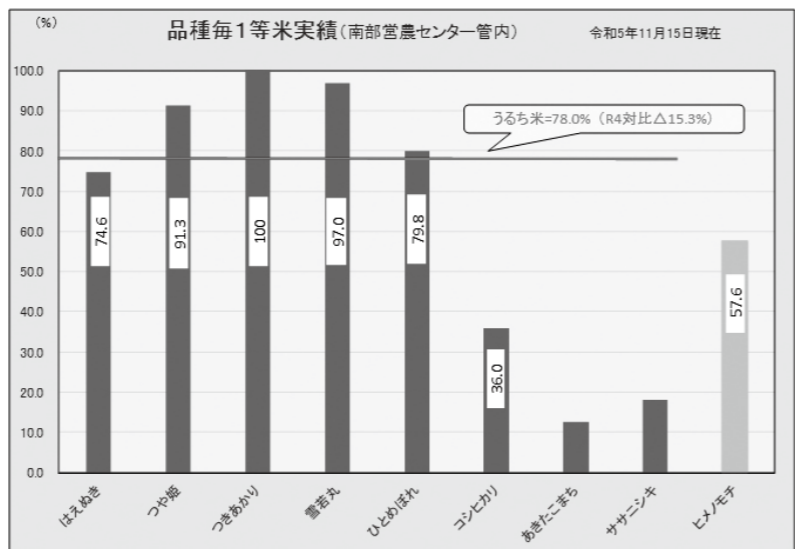
作物も灌水設備導入等が必要で。来年も高温を想定する必要がありますが、各農家の経験、ノウハウだけの対策は難しいと思います。それぞれの作物にあったソフト、ハード面の対策が急務だと思えます。農家は燃料、生産資材の高騰、気象状況の激変など大変厳しい状況です。

永続的に経営ができるよう、県、国と連携して対策が急務だと思えますが町長の考えを伺います。

町長 当町11月15日時点のJA分の米の品質は、品種別の1等米比率は、はえぬきが74.6%、つや姫が91.3%、雪若丸が97%となっております。園芸作物は、高温の影響により、生育不良となり出荷量が減少した作物が多くなっています。次に猛暑及び少雨に関する救済策であります。現在決定しているものは、町独自の農業用揚水ポンプの電気料金の支援があります。

続いて来年度以降に行う対策のうち、ソフト面に関しては、高温による品質低下については、県ではマニュアルを整備すると発表しておりますので、その内容を確認して対策を検討します。

町民が安心して高温耐性のある品種を植えられように、県に要望活動



猛暑の影響を受けた舟形町産1等米実績!!

を進めてまいります。ハード面に関しては水稲は水管理が重要であり、河川の水位が低下し、農業用水が確保できなくなる恐れが出てきます。それを回避するためには頭首工上流部の浚渫などが必要であり県に要望を行ってまいります。

野菜類の対策に関しては、灌水設備の整備が効果的と考えております。

町独自の園芸拡大ステップアップ事業により支援してまいりたいと考えます。

今後の救済策、対策につきまして国及び県、JA、土地改良区と連携を図りながら取り組んでまいります。



いとう ひろよし 伊藤 廣好 議員

特別職登用方針と職員の地域担当制を

副町長の登用方針は未定・担当制は考えていない



町長の職務代行を担う副町長の執務室

質問 森町長は9月に3選出馬を表明されました。次の質問をします。

①副町長については8年間で県職員4名の方々を招聘されているが、今後もその方針か、あるいは町内者を考えているのか。

②各種女性委員の委嘱状況及びクォーター制による女性委員の増員を。

③町外出身の町職員が多くなっており、地域を

知り対話を深めるため、

職員は地域担当制を検討してはどうか。以上について町長の見解を伺います。

町長 ①県職員の歴代副町長については、これまでの豊富な行政経験で、県との調整など、町行政力の底上げを実感しています。今後についてはまだ決めていません。

②17組織中、女性委員を委嘱していないのは7組織あり、全体で女性が占める割合は25%です。委員のクォーター制を決めてもよいが、共稼ぎの女性が多く、なり手がいないのではないのでしょうか。

③集落支援員の配置や庁内各課を横断した職員48名によるワーキング

グループで町内会びじょんの作成に参加、町内会をサポートしており、現時点では職員の地域担当制は考えてはおりません。

投票率向上と選挙業務の改善を移動期日前投票所を

検討へ

質問 舟形町議選について、

①投票率低下と開票確定時間遅れの改善を。

②投票率向上のため、旧学区毎に移動期日前投票所の設置及び不在者投票前に選挙公報配布を。

③投票時間を短縮し、長時間労働の改善と経費節減について、選挙管理委員長の見解を伺います。

②全国的には車を借り上げ、移動しながら期日前投票所を設置している例もあるが、当町の場合、地区公民館利用やレンタカー等を借り上げの方がよいのか、また投票所を増やすには、人員の確保と費用もかかり検討



選挙は民主主義の根幹、投票を呼びかける啓発看板

①投票率低下の要因は当初定員割れかに関心が高まらなかったのではないかと。若年層の選挙啓発を検討していく。開票事務の改善に努め、不在者投票前の選挙公報配布については検討してまいります。

③以前、町内有権者のアンケートを実施し、1時間及び2時間短縮してきました。これ以上の短縮は慎重に検討が必要と考えます。